様式3

令 和 3 年 度　　自 己 評 価 表　【最終評価】

鳥取県立緑風高等学校

中長期目標（学校ビジョン）	1　基本的生活習慣の確立による、生徒の自己管理能力の育成 2　夢と希望を持ち、世界を広げていくことのできる生徒の育成 3　社会のルールやマナーを遵守する生徒の育成 4　基礎・基本の重視による、生徒一人一人の学力の向上 5　生徒が将来の生き方を意識する進路指導の充実 6　自律性を伴った、生徒の自主性の育成 7　自然環境について考え、行動することのできる生徒の育成

今年度の重点目標	1　基本的な生活習慣の定着を促す。 2　生徒が主体的の取り組む授業つくり、深い学びにつながる授業つくりに取り組む。 3　個々の生徒の課題に向き合い、自立と成長を促す指導の充実に努める。 4　視野を広げ、他者と協力する体験活動の充実に努める。

年度当初					評価結果　（１）月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
基本的な生活習慣の定着	生活の自律	○時間を守ることができる生徒が増えている一方、決められた時間に行動できない生徒もまだ一定数いる。 ○教室等の環境整備については清掃などによりきれいに保たれている。 ○ごみの分別等環境配慮行動に対する意識は十分ではない。 ○１日の睡眠時間が６時間以内の生徒が１９％。一方、スマホやゲーム等の使用時間は５時間以上の生徒が５７％に及んでいる。 ○むし歯の保有率は高いが治療完了率は改善傾向にある。ブラッシング、セルフケアの指導により歯みがき習慣化が向上してきている（２回以上８７％）。 ○定期的な生徒個人ロッカー内の点検と整理指導により、教材管理が身につきつつある。	○規則正しい生活を送ることができている。 ○基本的な生活習慣（時間・挨拶・マナー等）について考え、行動できている。 ○「歯とロの健康」などの生活習慣や健康管理に関心を持ち、健康状態の向上に努めることができる。 ○環境美化に関心を持ち、身の周りの整理・整頓・清掃ができている。	○積極的な声かけや挨拶、丁寧な面談を通してコミュニケーションの具体例（対人関係における挨拶や対話）を提示し、習慣づけを働きかける。 ○健康的な生活を送るために必要な生活習慣について、振り返りをさせるとともに具体例（起床・就寝時刻・睡眠時間・歯とロの健康の保ち方）を提示する。 ○健やかな生活習慣を確立する具体的手立てを考えさせたり、実際に行ったりする場面を設けたりする。 ○生活習慣の改善について保護者と連携して働きかける。 ○感染予防のための衛生指導の徹底をはかる。 ○ロッカー内チェックと整理整頓の指導を行い、環境美化に努める。	○「あいさつや時間を守る、身の回りの美化を心がけている」と回答した生徒は８５．７ ％（前回+2.9%）、まったく思わない生徒も存在するが減少した。 ○11月の緑チャレでは睡眠（早寝）について学校全体で取り組み、全体の就寝時刻が早くなった。 ○う歯（むし歯）保有者に対し、担任をはじめとする全教職員で個別指導や声かけを繰り返し行い、懇談等の機会を捉えて保護者にも説明を行ったが、１月末現在の治療率は２３％（全校）と依然として低い。 ○日常的に感染予防対策の注意喚起を行い、生徒にも定着している。 ○「ゴミの分別や持ち帰り等考えて行動している」と回答した生徒は８５．１％（前回－3.5%）と若干減少した。食堂のゴミ出しの状況からも継続して働きかける必要がある。 ○生徒ロッカーの更新に伴い、ロッカー内の整理・管理を指導した。	B	○緑風チャレンジ１２（以下「緑チャレ」）を利用し、基本的生活習慣の定着・自立へ向け、粘り強く指導を継続する。 ○登下校時や日常的な挨拶・声掛け、面談を継続する。 ○ライフスタイル調査を継続し、生徒に自分自身の生活習慣について考えさせるとともに、学校全体の健康課題を把握する。 ○「歯とロの健康」について、個別指導や声かけを継続し、生活習慣の定着と合わせて引き続き指導を行う。 ○引き続き最新情報に基づき、感染予防対策の徹底を図る。 ○引き続き公共物を大切に使用したり、身の周りの美化や整理・整頓、ゴミの分別の徹底を指導する。
生徒が目標を持ち主体的に取り組む授業つくり	個に応じた学力の向上	○昨年度の生徒アンケート結果では、授業は工夫されていてわかりやすいと肯定的回答が８２．８%、教職員の丁寧な対応については８７．３%と高い数値であった。 ○課外指導に継続的に取り組み、力をつけてきている生徒も一定数いる。 ○「まなトレ」の取り組みは、概ね良好で互いに教えあう姿も見られる。また、学び直しや進路実現にも活用している。 ○昨年度の年間の単位修得率は定時制が６９．３%、通信制は８４．２%でどちらも目標以上であった。 ○多くの授業でＩＣＴを活用しているが、生徒自身で学習を進めるまでには至っていない。	○ものごとに興味を持ち、主体的に学習に取り組むことができている。 ○基礎学力を身に付けたり、進路を意識し学習に取り組むことができたり、また、上級学校の入学試験や就職試験に対応できる学力を身に付けている。 ○「授業は工夫されていてわかりやすい」と回答した生徒の割合７５%以上が継続している。 ○選択した科目を欠席しない環境を醸成し、定時制生徒の単位修得率は６５%以上、通信制生徒の単位修得率は７０%以上が継続している。	○公開授業を促進し、学習の楽しさ、深い学びにつながる内容を取り入れた授業の工夫・充実に努める。 ○「まなトレ」・課外指導を実施したり、外部の模擬試験や学力診断テスト等を活用したりして、基礎学力の向上をはかる。 ○毎日の声かけや個別の具体的な支援を行う。また、教職員間の情報交換を頻繁に行い、個別にきめ細かい指導を行う。 ○ＩＣＴのさらなる活用により、生徒個別の状況に応じた学習指導を充実させるとともに、県が支援する遠隔教育システムを活用する。 ○学生教育ボランティア（緑風ソシオ）による学習指導補助の充実をはかり、学習意欲の向上につなげる。	○授業公開週間を２回設定した。 ○「多くの授業が満足できる」と回答した生徒の割合が８８．１%であり、また、「教員が質問や相談に丁寧に応じてくれる」という項目については９２．７%であった。 ○年次毎に就職・進学問題集や「とりっこドリル」など自らのペースで自主的に取り組めた。「まなトレ」に関しては年次により運用状況は様々で、3・4年次の進路別学習には役立っているが、1・2年次の基礎学力養成には成果があまり認められなかった。 ○必要な生徒に課外指導や模試の活用を促し、取り組ませることができた。 ○「授業は工夫されていてわかりやすい」と回答した生徒は、８７．７%であった。 ○ＩＣＴ職員研修会（11月）を実施し、学習活動の活用、充実を図った。 ○コロナによる臨時休校を想定し、各教科で常に自宅学習課題などを準備して対応した。 ○３名の緑風ソシオの学習指導補助により、生徒の学習意欲が向上した。 ○定時制の前期単位修得率は70.4%である。昨年と同様、目標以上の達成である。 ○通信制の前期単位修得率は86.2%で昨年と同様、目標を大きく上回っている。	B	○公開・研究授業を企画して授業研究活動を促進し、生徒が学びやすい授業づくりをさらに進める。 ○低年次の「まなトレ」については内容を再度検討する。 ○社会生活に必要とされる基礎学力の養成、さらに進路実現に向けての学力向上を継続する。 ○ＩＣＴ活用、オンライン教育システムを推進し、引き続き授業改善に努める。 ○引き続き、生徒の進路希望状況を掌握して、早い段階から必要な支援や声掛けを行う。
	意欲向上と自信づくり	○資格試験について、全般的に受験者数は少ないが、漢字能力検定や秘書技能検定や情報処理検定など、授業に関連して受験できるものや希望進路に関連する検定など、多様な検定などに挑戦した。 ○特別支援教育支援員のサポートで、生徒が安心して授業に取り組めた。 ○本校での高校生活に満足していると肯定的な回答は、定時制が７５．２%、通信制が９２．５%で、どちらも目標以上の達成であった。 ○外部講師による授業やガイダンス・体験活動などにより、生徒の意欲向上に役立った。 ○資格取得について、生徒は、授業に関連して受験できるものや、希望進路に関連する検定に意欲的に取り組んだ。	○進路意識を喚起し、勤労観・職業観を育成し、進路目標に向けて努力している。 ○各種資格試験、検定等を１人が１受験目指している。 ○高校生活に満足していると感じている生徒の割合が、定時制では６５%以上、通信制では７５%以上が継続している。	○各種資格試験、検定のきめ細かい案内を行い、資格取得に対する意欲向上をはかる。適性のある生徒に対して個別に受験を勧め、個別の支援を行う。 ○特別支援教育支援員による授業のサポートをとおして、学習意欲の向上につなげる。 ○講演会、ガイダンス、面接講習会などの進路学習の機会を効果的に活用する。 ○進路意識を喚起し、勤労観・職業観を育成するとともに進路目標の明確化をはかる。	○資格試験について、漢字検定は昨年より受験者数は減少したが合格者率は高かった。また、家庭科や商業科の科目に関係する検定など多様な検定等に挑戦した生徒もいた。 ○緑チャレや進路だよりなどで資格取得を促し、「まなトレ」を活用して準備の学習を行った。しかし、一人一検定受験には至っていない。 ○高等学校卒業程度認定試験を受験した生徒が複数名おり、しっかりと準備した生徒は複数科目認定され進学意欲が高まった。 ○特別支援教育支援員による、生徒への授業時間内外の声掛け、支援活動により、落ち着いた生活や学習意欲の向上につながった。 ○進路に関する講演会、講習会などは生徒の進路意識を喚起する良い機会となったが、意識の継続、具体的な行動に繋げることができなかった。 ○「高校生活に満足している」と回答した生徒は、定時制で８５．４%、通信制では９３．４%であった。	B	○担任を中心として計画をたて、資格取得の意義を分かりやすく生徒に伝え、積極的な受験を奨励するとともに受験へ向けた支援を行う。 ○引き続き特別支援教育支援員も含め、全職員で生徒が落ち着いた学校生活が送れるよう支援する。 ○引き続き生徒の実態や課題に即した外部講師による講演や体験活動を行う。 ○２年次より定期的なCA面談を実施したり、継続的に進路について考える機会を作る。 ○生徒が自信を持てるよう、様々な場面で前向きな評価を与えるとともに、低年次から進路に関する働きかけを工夫し、将来について具体的に考える機会を増やす。
個々の生徒の課題に向き合い、自立と成長を促す指導の充実	生徒の内面を理解しそれを生かした指導	○全員の生徒への声かけを日常とし、継続した担任による面談（３回以上）、ＳＣ（スクール・カウンセラー）面談などを行い、生徒理解に役立っている。 ○各部課程・学年ごとの生徒情報交換と、ＳＣ・ＳＳＷ（スクール・ソーシャルワーカー）連絡会を定期的に実施している。また、個別支援ケースについては職員間で対応策について協議し、共通理解をはかり実践に生かしている。 ○「専門医による相談会」を実施し医療機関との連携をはかり、一定の成果が表れている。 ○昨年度は、「質問や相談に丁寧に応じてくれる」と回答した生徒の割合が８７．３%であり、目標値を上回った。	○情報を共有しながら発達課題に応じた具体的かつ現実的な支援を行い、生徒が自立へと努力している。 ○前年度に比べて不登校（年間30日以上の欠席）であった生徒の人数が減少している。 ○質問や相談に丁寧に応じてくれると感じる生徒の割合７５%以上が継続している。	○担任などによる個人面接や様々な場面をとらえ、生徒一人ひとりとのかかわりを大切にした指導に努める。 ○全生徒に対し、担任等による面接を年間３回以上実施する。 ○教育相談係会を隔週、ＳＣ・ＳＳＷ連絡会を毎月持つことによって、個々の生徒に対する具体的な支援策を策定し実行に移していく。 ○校内支援委員会を活用した組織的な支援により、各部課程をこえた情報共有と個別支援ケースの進捗状況を把握・検討する。 ○医療機関などの各種外部専門機関と連携した支援体制を充実させる。	○生徒全員への声掛けを日常とし、定時制では担任による面談を３回以上実施したほか、１、２年生対象のＳＣ定期面談を平均約３回（３、４年生は約１回）実施し生徒理解に努めた。 ○ＳＣ・ＳＳＷ連絡会（月1回）と各部課程・学年ごとの生徒情報交換を定期的に実施し、個別支援ケースについて職員間で対応策を協議し共通理解を図った。 ○１２月末までで２０日以上欠席した定時制生徒が、昨年より１５名減少した。 ○「専門医による相談会」を実施し医療機関との連携を図り、一定の成果が見られた。 ○「質問や相談に丁寧に応じてくれる」と回答した生徒は９２．７%であり、目標値を大きく上回った。	A	○引き続きＳＣ・ＳＳＷ連絡会などで定期的に部課程間で情報共有する機会を持ち、校内外の連携を密にしていく。 ○引き続き不登校傾向の生徒については、関係職員と連携をとりながら改善に取り組む。 ○「個別の教育支援計画」を本人の自己理解にも活用し次年度に確実に引き継ぐなど、校内の支援体制を整え、継続した取り組みをする。
	自立をめざす生徒指導	○昨年度は、「マナーを意識した行動を心掛けている」と回答した生徒の割合は８０．９%と目標の値以上であった。また、マナーを意識し、改善への行動がとれる生徒の割合が増加した。 ○就職活動をする生徒の大半は、様々な進路行事への出席や面談を通じて自己理解を深め、就労への意識も高めている。 ○日常生活における小さな目標を記した「チャレンジシート」は、自分の改善点を意識させ、その改善に向け一歩を踏み出す気持ちを喚起している。	○社会で通用する行動・ルールやマナーの向上の指導をとおして、お互いを思いやる心や自律性と自主性が身についている。 ○「ルールやマナーを意識した行動をとるよう心掛けている」と回答した生徒の割合７５%以上が継続している。 ○進路意識を喚起し、勤労観・職業観を育成し進路目標が明確になっている。 ○身近にある差別やいじめに気づき、その解消に向けて取り組んでいる。 ○通級指導などの個別指導において、自分のことを理解し自分らしく生きていけるような力を身につけている。	○生徒一人ひとりとの関わりを大切にした声かけや挨拶を交わし、他者に配慮した言動などができるよう努める。 ○規範意識が身につくよう、ルールやマナーについて随時指導するとともに自ら考えて行動できるよう継続して働きかける。 ○進路ガイダンス、進路ＬＨＲ、ＣＡ面談などで自己理解を深めさせ、キャリア設計能力や社会性を育成する。 ○生徒個々に応じた校内の支援体制を確立するとともに、外部機関と連携しながら進路実現に向けた機会をつくる。 ○人権教育ＬＨＲ・人権学習講演会などの充実と、いじめアンケートを活用し未然防止、早期発見に努める。 ○通級指導等をとおして、社会生活を送る上で必要な力を育成する。	○多くの生徒が挨拶を心がけ、お互いを思いやって過ごす雰囲気が醸成されてきている。 ○「ルールやマナーを意識した行動をとろうと心がけている」と回答をした生徒は９０．３%（前回+1.1%）、また、「ルールやマナーを守るようになっている」と回答した生徒は、８０．５%（前回+6.0%）であった。 ○定期的なＣＡ面談で生徒の自己理解や課題克服に向けたスモールチャレンジを促し、意識的に取り組む生徒も見られた。 ○進路室来室時や進路強化月間等でルールやマナーについての指導を行い、丁寧なあいさつを意識する生徒が増えた。 ○様々な進路学習の機会を捉え、勤労観、職業観の育成に努めているが、進路目標が明確な生徒は多くはない。 ○人権教育公開ＬＨＲ等をとおして、人権問題に対する意識を高め、人権教育の充実を図った。 ○通級指導をとおして自らの課題を理解し向き合う力が育ち、また職場見学会やインターンシップへの個別支援により将来に向けた生き方に意識が持てるようになってきた。	B	○引き続き粘り強く、全教職員で生徒への声掛けや個々に応じた指導をしていき、ルールやマナーを守りお互いを思いやるような取り組みを行っていく。 ○進路指導部と教育相談部のみならず、早期に卒業予定生担任間の連携も密にする。 ○チャレンジシートをさらに有効に活用できる方法を考える。 ○２年次より定期的なＣＡ面談を実施したり、継続的に進路について考える機会を作る。 ○人権教育ＬＨＲはもとより、日ごろからいじめや差別を許さない指導を継続して行う。 ○引き続き生徒・保護者の希望や生徒の実態把握による職員間の連携を図りながら通級指導の準備を行う。
視野を広げ、他者と協力する体験活動の充実	体験活動の活用	○「ＴＥＡＳⅡ」（鳥取県版環境管理システム）の環境改善目標は概ね達成できている。 ○昨年度も緑風祭や球技大会など、生徒会執行部が中心となり企画・運営ができた。 ○県高等学校生徒会連盟大会では、バレーボールなどの競技で好成績を収めた。 ○アルバイト就業事業、インターンシップなどの体験事業に参加した生徒は、自信を得たりコミュニケーションの大切さを学ぶなど、一定の成果を得ている。	○環境目標を達成するための具体的実践を全校で進め、省資源・省エネルギー・ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）に関する意識が高まっている。 ○授業や学級活動、生徒会活動、学校行事等に積極的に関わっている。 ○アルバイトやインターンシップなどの社会体験に取り組み、コミュニケーション能力、自己肯定感を持つ生徒が増えている。	○「ＴＥＡＳⅡ」を適切に運用しながら、環境美化に配慮した実践、エコ活動の推進などを、教職員全員が率先して行う。 ○委員会の活動内容を示し、生徒会執行部が中心となり主体的に企画運営できるように支援する。 ○学年や教育相談部と連携して情報を共有しながら、生徒個々の状況に合わせ、アルバイト、インターンシップなどを低年次から推進する。	○教職員個々がテーマを持ち環境活動に取り組んだ。 ○生徒主体による環境ＬＨＲを実施した。 ○生徒会執行部の生徒が中心となり、球技大会や緑風祭の企画・運営を主体的に行うことができた。 ○コロナの影響で大会中止が相次ぐ中、活発に活動ができている部もある。 ○インターンシップに参加し、進路選択の参考にした生徒、自信をつけた生徒、課題が見つかった生徒と、それぞれ成果を上げている。 ○アルバイトで社会性を身につけ、自信を得ている生徒は少なくない。	A	○引き続きＳＤＧｓについて生徒に説明する場面を設定するとともに、環境に配慮した行動に教職員が率先して取り組む。 ○緑風祭や学校行事などで、生徒が主体的に話し合ったり協力して活動できる場をさらに設定する。 ○引き続き必要な生徒にアルバイトやインターンシップを奨励していく。
	集団への適応力の育成	○生徒面接前にhyper-QU研修を行い、結果をクラス経営に活用している。また、ユニバーサルデザインを学習環境や授業に取入れ、「わかりやすい授業」の展開に努めている。 ○ＳＣによる１年生、２年生対象定期面接実施、ＳＳＷの校外機関への訪問・連携、担任の家庭訪問同行等を実施し、生徒状況等の把握に努めている。 ○昨年度は「安心して通える学校だ」と回答した生徒の割合が８２．２%であり、昨年度を上回った。	○年２回実施するhyper-QUにおいて、強い孤立感や孤独感が示唆されている生徒の数に顕著な改善がみられる。 ○「鳥取緑風高校は、安心して通える学校だ」と回答する生徒の割合７５%以上が継続している。	○緑風ハートフルなどの活動をとおして他者とのかかわり合い、人間関係づくりを促す。 ○担任とＳＣ、ＳＳＷとの協力によって家庭訪問や校外専門機関との連携を強化し、生徒の人間関係作りを支援する。 ○ひきこもり傾向の生徒に対しても、定期的な家庭訪問等の適切なかかわりを粘り強く継続する。 ○hyper-QUや生徒実態把握の結果を生徒面接やクラス経営に積極的に活用する。	○校外の緑風ハートフル（夏・冬）の参加者はのべ１９名・校内の緑風ハートフル（３回）の参加者はのべ１９名であった。 ○ユニバーサルデザインを学習環境に取り入れることに努め、様々な場面で担任、学年団、養護教諭、ＳＣ、ＳＳＷ、生活指導部、教育相談部が連携し、保護者の協力を得ながら生徒達の活動が円滑に行えるよう支援した。 ○定時制では担任による生徒面談の前にhyper-QU研修を行い、結果をクラス経営に活用するとともに生徒状況の把握と課題の改善に努めた。また生徒の困り感アンケートで、６月に１０項目以上に困り感を示した生徒が１２月には９名減少した。 ○問題行動等に対し、担任のみにならず、学年団、生活指導部、教育相談部、養護教諭、ＳＣ、ＳＳＷが連携し、保護者連絡をこまめに行い、連携を密にしながら生徒指導に取り組めた。 ○学校評価アンケートで「鳥取緑風高校は、安心して通える学校だ」と回答した生徒は９０．２%（前回＋3.6%）と若干増加した。	A	○校内外で連携を取りながら情報共有し、生徒個々と集団の両側面から学校生活への適応が図れるようチームでの指導・支援を継続する。 ○引き続き日頃の声掛け、あいさつ等を通して生徒の実態把握に努める。 ○引き続き授業や教室のユニバーサルデザイン化に努め、居心地の良い学習環境の整備を目指す。 ○転編入生や長欠の生徒については、学期開始後できるだけ早期に担任・ＳＣ面談を実施する。 ○保護者懇談、生徒面接などにもＳＣ・ＳＳＷ・教育相談部も加わり、担任との連携をさらに密にする。

※ 緑風ハートフル：校内外での人間関係づくりのための体　※ まなトレ：高校までの学習内容の学び直しのための教材　※ 緑風チャレ：緑風チャレンジ12（強化月間）

評価基準　A：十分達成(100%)　B：概ね達成(80%程度)　C：変化の兆し(60%程度)　D：まだ不十分(40%程度)　E：目標・方策の見直し(30%以下)